

サイバー文明の到来とその統治

慶應義塾大学総合政策学部
國領二郎



根本問題

デジタル経済は近代工業経済と根本的に構造が異なっている

これまでは工業経済のモデルに乗るようにデジタル価値を生産・販売してきた⇒矛盾が拡大中(格差拡大、無形財の所有の困難など)

工業製品も急速にネットワーク化してデジタル経済の原理に取り込まれ、従来の仕組みでは統治不能になりつつある

新たな文明への転換期に来ていると見るべき。日本にとっては明治維新以来のパラダイム転換期。法体系や倫理、哲学も見直す必要

理解すべき四大要因

ネットワーク外部性

情報もサービスもユーザーが増えるほど価値が増す
⇒近代工業文明(市場経済)の収穫逓減前提が覆る

ゼロマージナルコスト

情報の複製(マージナル)コストは限りなく低い
市場経済⇒マージナルコスト=価格
⇒価格メカニズム(市場経済)では調整できない。デジタル財が希少性で売れるようになったと喜んでいる場合ではない。市場メカニズムが終焉してしまう

複雑系

グローバル化とネットワーク化で影響が複雑に絡み合う
⇒近代工業の管理・コントロール手法では対応できない

トレーサビリティ(追跡可能性)

⇒所有権販売モデルの必然性がなくなる

データ連携(持ち寄り)の価値を実現したいが

生み出されつつある膨大なデータの共有・利活用によって価値創造をしたい

ただし、ビッグテックのデータ濫用に対する批判が急速に高まっており、欧州を先頭に規制論が高まっている

産業用でも企業秘密や安全保障の観点からデータコントロールを厳格にしながらデータ連携を行う方策が検討されている

データ連携のモデル

中国型：

国家の力でデータを集約、匿名化してベンチャーに提供⇒AI開発などに絶大な力を発揮するが非民主的

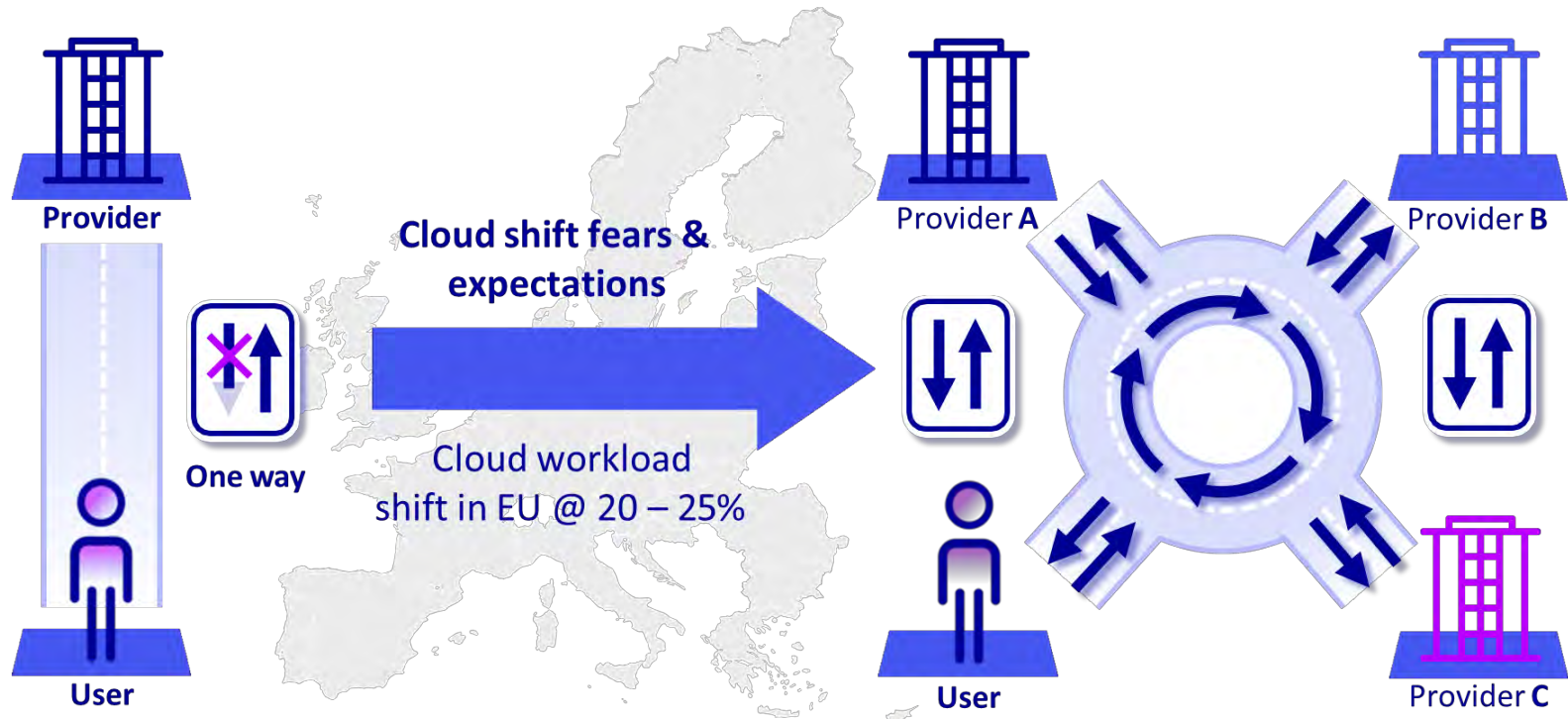
米国メガプラットフォーム型：

無償サービスと引き換えにデータ収集。有効だがプライバシー問題や企業秘密問題が山積。規制強化？

第三の道として、ユーザの意思を守るID技術がもたらす安心・信頼と、共同体が醸成する利他主義の組み合わせが注目されている。

分散・連邦型アーキテクチャ ”Control Back to Users“

From one-way to free & sovereign



Gaia-X ホームページより

欧州の対GAFAM戦略という色合いも濃いだが、、、

自己主権を前提にデータ共有を考える

仮説：(地域)コミュニティで利他主義的
データ共同利用社会を構築する

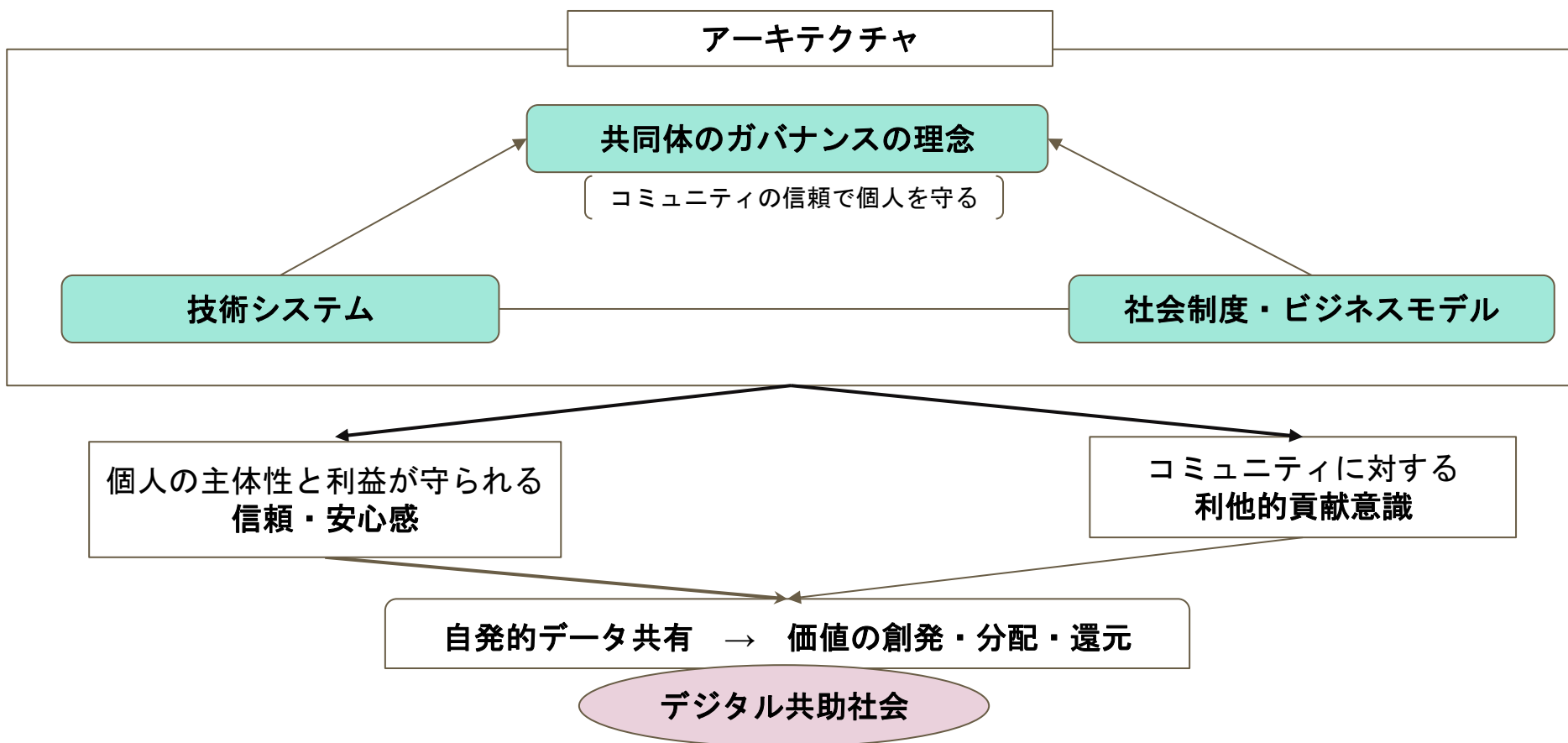
自己主権型
IDによるユーザ意
思・利益保護

共助努力への
インセンティブ

利他主義倫理

コミュニティの連邦(Federation)で
よりマクロなデータ連携を実現

技術システムと社会システムを統合するアーキテクチャの視点で考える

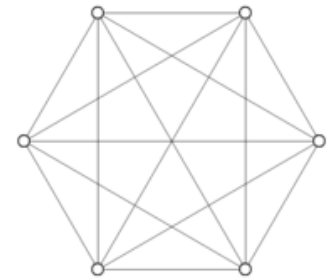
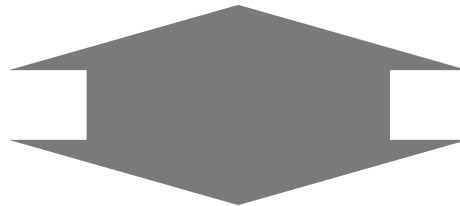


サイバー文明の倫理と持ち寄り経済の精神 東洋思想の出番？

- 近代は「個」による（相互の人権を尊重しながらの）幸福の追求が、社会全体の富の増大と安定につながるとの前提で構築されてきた

⇒ **個人主義**が自由主義社会の根幹

データは個人のもの？



- 情報は他の情報と結合した時に価値を増大させる性質を持っている

⇒ **利他主義**の倫理観と経済システムが欲しい

データは社会のもの？